Awara News

あわらニュース vol.64

平成28年12月1日発行

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。

あわら市民文化祭に参加して

看護師　弓良 静江

11月5日、6日に、あわら市中央公民館において「第13回あわら市民文化祭」が開催されました。当院は、地域の皆さまの健康をサポートすると共に、あわら病院を知って頂くために平成22年から健康フェアを実施しています。恒例の体脂肪、血管年齢、骨密度などの測定や栄養士による栄養相談、在宅医療相談、ちびっ子白衣体験のほか、今年初めてハンドマッサージ体験を設けさせていただきました。お天気は良いものの冷たい風が吹く中でしたが、測定には105名、ハンドマッサージには48名の方に来ていただきました。中には「去年も来て測ってもらったんやけど、値が悪かったで運動したり食事に気を付けたら少し若返っていたわ」と2年連続参加していただける方や、「自分が思っているより骨密度も血管年齢も実年齢より上がっていたで栄養相談行ってくる」「血圧高いで血圧計買って測らなあかんかな?」とハンドマッサージを行う最中に話してくださる方がありました。このような機会が、市民の皆さまの健康への意識の高まりに役だっているのだと感じました。また、ちびっ子白衣体験では、お孫さんの姿を目を細め写真撮影している姿や、姉妹で白衣を着てポーズを決めている子供たちの笑顔はほほえましく、温かな時間を過ごせました。あわら市民文化祭は、普段できない市民の皆さまと触れ合う有意義な時間でした。これからも、多くの人の笑顔のために交流を持っていきたいと思いました。

参加してくださった市民の皆さまありがとうございました。

年の瀬の雑感

診療部長
川満　徹

今年も、当院の重症心身障害児（者）病棟へ福井大学医学部の学生さん達が隔週のペースで実習に来てくれました。大学病院等の実習ではあまり馴染みの無い患者さん達に最初は戸惑いもある様ですが、時間が経つにつれ患者さん達ともコミュニケーションを取れる様になり、最後に提出してもらうレポートには、彼らの素直な感想が述べられています。そこには、患者さん達が病棟で過ごす日常に触れて普段とは又違った刺激を得られた事が綴られています。

私自身も約30年前の学生の頃に、当院に1日だけ実習に来た事がありますが、その時の事は今でもよく覚えています。身体と知的な面の重い障害を併せ持った患者さん達が過ごしていく1日の重みといった様なものを肌で感じて、通常の自分の日常では遭遇する事の無い光景の前に衝撃を覚えたのでした。

医学科の学生さん達に加え、今年度からは同大学看護科の学生さん達も実習に来られる様になりました。彼らのひたむきな勤勉さもさることながら、最も印象的だったのはそのきらきらした目の輝きです。彼らの前途には、沢山の可能性を秘めた世界が開けている事でしょう。それをまざまざと見る者に実感させてくれる素晴らしい輝きでした。

そんな彼らに接すると、私は又々たじたじとなってしまうのです。自分も以前にはこんな輝く様な目をしていたのだろうか…、彼らの輝く未来に比して自分にはこの先どんな時間が待っているのだろうか…、などと考え始めると、遂々暗い気持ちに包まれてしまいます。でもこういう真面目で明るく、そして未来へ向かって邁進していく若い人たちの姿に接する事が出来る喜びも又同時に感じる事が出来ます。

彼らが立派な医療者として成長していく事と、願わくば当院との縁が一層深まる事を祈りつつ、この慌ただしい年の瀬の雑感の閉めとしたいと思います。

「心不全パンデミック」

副院長・循環器科　見附 保彦

循環器領域、特に心不全の領域では、今後予想される慢性心不全患者急増、いわゆる「心不全パンデミック」にどうやって対応していくのかが大きな問題・課題となっています。統計学上も心不全は年齢とともに発症頻度が増加する疾患で、再入院率も高いことが特徴です。このことが心不全パンデミックの一因でもあると考えられています。日本心不全学会は2016年10月に、今後の心不全治療の指針として『高齢心不全患者の治療に関するステートメント』を発表しました。ステートメントでは、高齢心不全患者であっても積極的に治療すべき症例が存在することを再確認する一方、積極的治療によってQOLが悪化する症例も存在するとしてQOL重視の治療の意義を強調、さらには終末期を意識した多職種による緩和ケアなどの導入も提言されています。また、心不全パンデミックに対応するには、ひとつの基幹病院だけでの対応には限界があり、地域の医療圏全体で支えていく必要があると考えます。個人的な意見にすぎませんが、超急性期は基幹病院、急性期はその他の急性期病院、慢性期は一般病院や診療所と役割分担を行うなど、心不全の重症度に応じて病院の規模や対応能力にあった診療分担を行うことが重要であると考えています。今後、末期心不全の在宅医療も視野に入れ、循環器の専門・非専門を問わず、患者の特性を把握しながら適切な診療方針を選択し、包括的に治療を行っていく多職種の介入が必要と考えています。あわら病院は、多職種カンファレンスでのICFを用いた患者評価に努めています。

地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

社会福祉法人　坂井来春会
介護老人保健施設　坂井ケアセンター

社会福祉法人 坂井来春会　坂井ケアセンター
〒919-0537 福井県坂井市坂井町折戸1-58
TEL(0776)72-7373　FAX(0776)72-7171

介護老人保健施設「坂井ケアセンター」は、平成10年6月に坂井市坂井町折戸地係に開所し、今年で満18年を迎えました。さらに、通所リハビリテーション、通所介護事業所、ショートステイ、グループホーム等を併設し、地域の利用者様への多様な福祉サービスが総合的に提供される拠点として、昼夜を問わず職員が一体となり利用者・ご家族に寄り添った介護サービスの提供充実に努めております。

ここ数年、入所施設等で見られる超長寿化と高介護度傾向は、介護施設と国立病院機構あわら病院様をはじめ各医療機関との連携、いわゆる「介護と医療」の連携強化が重要となってきております。

当法人では、専門性を高めた介護サービスが実践できる体制づくりに努め、効率的な介護と医療との連携強化を図り、地域に根ざした介護サービスの向上と安全・安心の提供を通して地域の輪、世代間の輪が広がるよう、より一層の精進をしてまいりますので、よろしくお願いします。

施設長　山本恵美子

【併設事業所】

介護老人保健施設	坂井ケアセンター	(定員100名)
通所リハビリテーション	坂井ケアセンター	(定員30名)
通所介護事業所	さかいデイサービスセンター	(定員30名)
認知症対応型共同生活介護	グループホームさかい	(定員18名)
短期入所生活介護	ショートステイやすらぎさかい	(定員18名)
居宅介護支援	坂井ケアセンター居宅介護支援事業所	
訪問介護	坂井訪問介護二の宮センター	

原子力災害に備えた取り組みに向けて

診療放射線技師長　梶谷　弘

昨年、あわら病院は福井県より「初期被ばく医療支援機関」に指定され、県と国が共同で実施する原子力防災訓練に初めて当院より放射線技師1名、事務部門より1名が参加させていただきました。訓練は地域住民の汚染検査と簡易除染、避難車両、搭乗者の汚染チェックと除染について実施されました。従来の認識では緊急時の被ばく医療は全身スクリーニングを行うと考えていましたが、汚染の可能性の高い、頭と手、足の裏を測定し原子力災害対策指針の基準値(OIL4)以下の場合は「汚染無し」と判断するとの事でした。

この方法により、多数の方を迅速に避難出来るように素早くスクリーニングを行うという実践に即した訓練であり、当院で対応する場合においても非常に参考となりました。

また、こうした訓練を毎年実施し新たな試みを実践していく事の重要性を感じました。

原子力災害は決してあってはならない事ですが、初期被ばく医療機関としてスクリーニング方法など、訓練を参考に今後の備えに役立て取り組んで行きたいと考えています。

外来担当医表

（平成28年12月1日現在）

診療科		月	火	水	木	金
総合	内科	津谷 寛	鈴木 友輔	大槻 希美	見附 保彦	清水 智弘
	小児科	大坂 陽子＊	川満 徹＊	大坂 陽子＊	湯浅 光織＊	村井 宏生＊
専門	リウマチ			津谷 寛	津谷 寛	
	血液・腫瘍			浦崎 芳正＊	大槻 希美(第2･4)	
	痛風				津谷 寛＊	
	生活習慣病			鈴木 友輔(第1･3)		
	老年			桐場 千代(第2･4･5)		桒田 敦
	神経			林 浩嗣(第1･3･5)		
	循環器	見附 保彦	見附 保彦			
	外科	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢	齊藤 貢
	整形外科	下崎 研吾				
	眼科				吉岡 達也＊	
	皮膚科		若原 真美			若原 真美
	地域ケア		桐場 千代			
	禁煙外来	見附 保彦	見附 保彦			

● 受付時間8:30～11:30　● 黄色枠は予約制　● ＊印は午後診察　● 休診日／土･日･祝日･年末年始

※皮膚科の診察は、火曜日･金曜日の午前中（9:00～11:00）です。

※神経内科の診察は、第1･3･5水曜日（8:30～11:30）です。　※専門内科の午後診察は、14:00～16:00です。

※禁煙外来の診察は、月曜日（8:30～11:30）･火曜日（10:00～12:30）です。

感染管理便り

感染管理認定看護師　桒田由香利

朝晩めっきり寒くなりました。いよいよインフルエンザの時期となり、福井県内でもすでに流行時期に突入しました。インフルエンザは咳やくしゃみなどで感染します。「咳エチケット」という言葉も定着しましたが、確実にできているでしょうか。①咳やくしゃみなど、少しでも症状がある場合はマスクを着用しましょう。②咳やくしゃみをする際はティッシュなどで鼻と口を押え、周りの人から顔をそむけましょう。③使用後のティッシュはすぐにフタ付きのゴミ箱に捨て、手洗いをしましょう。体調不良時は早期に受診し、早めに治療することが肝心です。医療機関では流行性の病気で受診する患者さんが増えてきます。受診時は「咳エチケット」を実施し、周囲の方へうつさないように配慮をお願います。

独立行政法人 国立病院機構 あわら病院
福井県あわら市北潟238-1　TEL.0776-79-1211（代表）FAX.0776-79-1249
〈地域医療連携室〉　TEL.0776-79-1212内線（785）FAX.0776-79-1261
URL http://www.awara-hosp.jp/

【診療科】内科、小児科、外科、皮膚科、血液･腫瘍内科、リウマチ科、神経内科
老年内科、循環器科、整形外科、眼科、リハビリテーション科
【病床数】172床
【教育】日本内科学会認定教育関連施設、日本血液学会、日本リウマチ学会認定施設

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より（5km）
①京福バス（北潟花菖蒲園行き、あわら病院前下車）
②乗合タクシー（デマンド交通）［事前予約が必要］

JR北陸本線芦原温泉駅より（10km）
①京福バス（あわら湯の町駅で乗換）
②乗合タクシー（デマンド交通）［事前予約が必要］

※出発時間は、受付に備え付けの時刻表、またはホームページ（交通案内）をご覧ください。